

2025 年度業務実績報告書

提出日 2026 年 1 月 16 日

1. 職名・氏名 准教授・篠山 治恵

2. 学位 学位 博士（農学）、専門分野 植物育種学、授与機関 筑波大学、授与年 2004 年 7 月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・食農環境・文化概論（通年 4 単位）1 年生	
②内容・ねらい 食えることと農業は本来密接につながっており（食農）、それを取り巻く環境・文化はこの食農と切り離せない存在である。それが本来の「農」であり、「農」とは総合知であることを実務経験者から学び、自分の中で「農」のとらえ方を学習する。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・授業毎にレポートを提出させ、習熟度を高めた。 ・学期末ごとにレポートを提出させ、そのレポートに基づいた面談をすることで、学生の習得程度の把握と理解の促進を行った。 ・学年末には「農」に関する意見論文を作成させることで、学生自身の「農」のとらえ方を明確にさせた。	【ゲストスピーカー 16 人】 【フィールドワーク 0 件】
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・食農環境実習 I（通年 2 単位）1 年生	
②内容・ねらい 福井県内全域を学びの場として、実際に「農」の現場を訪れると共に、あわらキャンパス内圃場を使って、農作物の栽培、農・海産物の収穫、加工、消費、および共同体活動を広く体験する。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・授業毎にレポートを提出させ、学期末に面談にて修得程度の把握と理解の促進を行った。 ・学生と外部講師の間の意思疎通が図れるように、用語解説や補助説明を適宜行った。 ・撮影可能な場所で撮影した写真を Google Classroom にアップし、課題提出時の資料になるように心掛けた。	【ゲストスピーカー 33 人】 【フィールドワーク 27 件】
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・食農環境演習 I（通年 4 単位）1 年生	
②内容・ねらい 食農環境実習 I で体験したことについて学生各自で日誌にまとめ、その都度、教員に提出する。また体験したことをより深く知るための情報収集の方法について指導する。さらに学生同士で対話して情報を共有し学び合う。それらの情報をもとにグループディスカッションを実施するための準備を行う。	

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・演習毎にレポートを提出させ、記憶の定着と理解の促進を図った。 ・学期末には1年の振り返りとともに1年まとめレポートを作成させ、さらに面談による指導を行うことで、修得程度の把握と理解の促進を行った。 【ゲストスピーカー 33人】 【フィールドワーク 27件】
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・総合農学（通年8単位）1年次 オムニバス形式
②内容・ねらい キャンパス内の圃場で、年間を通じて実際に農作物を栽培し、収穫、加工、消費までを体験する中で、栽培技術、農作業機械操作技術、加工・調理技術、簿記技術を身に付けるとともに、農業と気象、土壌環境、他の生物との関係性を観察、理解し、実験計画法、土壌分析法、雑草・病虫害被害調査方法などを学習する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・授業毎に作業日誌を作成させることで実習内容を把握させた。 ・学生自身に考えさせる時間をもたせることを心掛けた。 ・学年末には各自に作成させた MyFarm 報告書に基づいた発表をさせ、作業計画の妥当性、作業手順の効率性と有効性について検証させた。 【ゲストスピーカー 6人】 【フィールドワーク 24件】
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・農業インターンシップⅠ（通年1単位）1年次 オムニバス形式
②内容・ねらい 夏季休暇中（8月～9月）にキャリア形成に向けた実践的な研修を行う。複数のコースを設け、学生の希望する分野をより深く体験する。公設試験場や研究・教育機関における農林業に関連する取り組みを学び、現場ニーズに対する具体的な解決策を提供する方法を理解する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・研修報告を兼ねたポスター発表をあわらキャンパス収穫祭でさせることで、研修の振り返りと現場のニーズに対する解決策を提案させた。 ・ポスター作成等に当たっては適宜助言を与え、分かりやすい資料の作り方や発表方法を学ばせた 【ゲストスピーカー 21人】 【フィールドワーク 21件】
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・食農環境実習Ⅱ（通年2単位）2年次 オムニバス形式
②内容・ねらい 食農環境実習Ⅰでの体験を通して思い描いた学生自身の将来像にもとづき、実現に向けての学習・グループディスカッションを行う。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・適宜レポートを提出させ、学期末に面談にて理解程度の把握と理解の促進を行った。 ・実習では、教員や特任講師とのディスカッションの時間を設けることで理解を進めるとともに、自己実現のためのグループディスカッションを実施した。 【ゲストスピーカー 34人】 【フィールドワーク 22件】
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・食農環境演習Ⅱ（通年4単位）2年次 オムニバス形式

②内容・ねらい 食農環境実習Ⅱで実践したことについて学生各自で日誌にまとめ、その都度、教員に提出する。また体験したことをより深く知るための情報収集の方法について指導する。さらに学生同士で対話して情報を共有し学び合う。それらの情報をもとにグループディスカッションを実施するための準備を行う。 ③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・演習毎にレポートを提出させるとともに、学期末ごとに面談による指導を行い、修得程度の把握と理解の促進を行った。さらに分属に向けての個別相談を実施した。 【ゲストスピーカー 34人】 【フィールドワーク 22件】
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・農業インターンシップⅡ（通年1単位）2年次 オムニバス形式 ②内容・ねらい 夏季休暇中（8月～9月）にキャリア形成に向けた実践的な研修を行う。複数のコースを設け、学生の希望する分野をより深く体験する。公設試験場や研究・教育機関における農林業に関連する取り組みを学び、現場ニーズに対する具体的な解決策を提供する方法を理解する。 ③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・研修報告をさせるとともに、あわらキャンパス収穫祭でポスター発表をさせ、研修の振り返りと現場のニーズに対する解決策を提案させた。 ・ポスター作成等に当たっては1年生を指導させるとともに、内容については3年生および教員から適宜助言を与えることで、分かりやすい資料の作り方や発表方法を学ばせた 【ゲストスピーカー 17人】 【フィールドワーク 17件】
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・先端農業技術活用論（通年2単位）2年次 オムニバス形式 ②内容・ねらい 先端的な農業技術（IoT、AI、GPS、ドローン、機械学習、衛星利用、農業資材、育種技術、施設園芸、植物工場等）について実践的に活用している講師をオムニバス形式で招き、それらの現在の活用方法を学ぶとともに、 ③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・授業毎にレポートを提出させ、採点して返却することで理解程度の把握と理解の促進を行った。 ・グループディスカッションを行い、未来型農業の実現のために必要な技術とその活用方法を議論させた。 【ゲストスピーカー 9人】 【フィールドワーク 1件】
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・総合的生物多様性管理論（通年2単位）2年次 オムニバス形式 ②内容・ねらい 農業の3大リスク（害虫、病気、雑草）の防除方法を学び、それらが生物多様性に与える影響を総合的に学び、これからの農業を取り巻く産業構造の在り方について議論する。さらに、農を取り巻く生態系のつながり、各分野の管理法に関する知識を得るとともに、生態系のつながりを活かした管理法を考え、議論する。 ③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・授業毎にレポートを提出させ、採点して返却することで理解程度の把握と理解の促進を行った。 ・フィールドワークとして福井県自然保護センターで開催された「外来種駆除」のイベントに参加させ、実際の現場で行われている生物多様性の保護について学習させた。

・グループディスカッションにて、農と生態系のつながりを重視した管理法を議論させることで、農業生産と生物多様性保全を両立させるための産業構造の改革方法について、グループディスカッションを行わせ、各人の意見を期末レポートとして提出させた。 【ゲストスピーカー 11人】 【フィールドワーク 1件】
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・花卉園芸学（前期2単位）2、3年次
②内容・ねらい 花卉園芸に関する基礎的な知識について解説するとともに、主要花卉品目の栽培に関する実例を学習することで、基礎的な知識の応用を体得する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・授業毎にレポートを提出させ、内容をチェックして返却することで理解程度の把握と理解の促進を行った。 ・学生と外部講師の間の意思疎通が図れるように、適宜用語解説、説明補助を行った。 ・実物を用いて、視覚的、嗅覚的な授業にするように心掛けた。 ・外部講師として奥越農林総合事務所の普及指導員の講義を取り入れ、現場に近い実践的な授業を行ってもらった。 【ゲストスピーカー 1人】 【フィールドワーク 1件】
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・花卉園芸学実験（前期1単位）3年次
②内容・ねらい 花卉園芸に関する基礎的な実験を行い、知識について解説するとともに、主要花卉品目の栽培に関する実例を学習することで、基礎的な知識の応用を体得する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・授業毎に班もしくは個人でレポートを提出させ、採点して返却することで理解程度の把握と理解の促進を行った。 ・常に実演をすることで、視覚的な理解の促進を図った。 【ゲストスピーカー 0人】 【フィールドワーク 0件】
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・農業戦略論（通年2単位）3年次 オムニバス形式
②内容・ねらい 世界の食糧事情を考察した上で、企業による農業ビジネスや種苗ビジネスの戦略を特任講師などから学び、広く農業の戦略について考える。農業の多角的な戦略を理解し、各自で設定した農業ビジネスの戦略を策定できるようにする。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・授業毎にレポートを提出させ、採点して返却することで理解程度の把握と理解の促進を行った。 ・グループディスカッションにて、農業ビジネスについて自分の考えをまとめさせることで、農業戦略について課題を明確にして、その課題解決のための戦略が論理的かつ具体的に策定させた。 【ゲストスピーカー 7人】 【フィールドワーク 1件】

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

- ・食品加工実習（前期 1 単位）3 年次 オムニバス形式

②内容・ねらい

農産物加工の基礎、食品衛生管理、6 次産業化に関する素養を身につけるとともに、6 次産業に関連する県内施設・企業の見学、食品加工実習を行い、加工食品について食品素材の生産、特性、製造方法、殺菌方法、貯蔵方法、包装技術、製品規格及び表示制度について総合的に理解する。さらに生産様式の異なる農産食品、水産食品、畜産食品、微生物利用食品の中から、代表的な加工食品の製造原理・製造技術を理解する。

③講義・演習・実験・実習運営上の

- ・授業毎にレポートを提出させ、採点して返却することで理解程度の把握と理解の促進を行った。
- ・共同作業を行わせることで、共同作業時の自分の役割について自覚するようにさせた。
- ・グループディスカッションを行い、食品加工に関する知識の体得を促進させた。

【ゲストスピーカー 18 人】

【フィールドワーク 4 件】

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

- ・専攻演習（通年 2 単位）4 年次

②内容・ねらい

各研究分野に関連する国内外の学術論文の読解力を習得するとともに専門分野における知識と理解を深める。また、学術論文の内容を総括し発表する能力を身に付けるとともに、討論する能力を養成する。さらに、本演習を通して、卒業論文研究を進める上で必要となる自然・人文科学的な思考力と解析力を養成する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

- ・花卉および育種学分野において、学生の卒業研究に近い学術論文を和訳させ、自分の研究の意義と位置づけを行わせた。
- ・卒業論文の途中経過については、収穫祭（2025 年 11 月 3 日）にてポスター発表をさせ、来場者や下級生からの質問に答えさせ、不足しているデータの確認と追試を行わせた。

【ゲストスピーカー 0 人】

【フィールドワーク 0 件】

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

- ・卒業研究（通年 8 単位）4 年次

②内容・ねらい

担当教員の指導を受けながら、卒業論文のテーマについて研究を計画・実施し、その成果を論文にまとめる。この過程で、研究の進め方や思考方法など論文作成に関わる基本、様々な実験・調査・解析の方法、情報収集のスキルを修得する。また、論理的な記述力や考察力、中間発表における討論や卒業論文発表などでコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につける。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

- ・花卉研究に関わる卒業論文テーマおよびその関連分野において、原著論文の和訳など、基礎的学習をさせた。
- ・ポスター発表においては、word や excel、power point などの使い方を教え、自分なりに分かりやすい研究成果のまとめ方、発表方法を習得させた。
- ・分属直後から緒言について執筆させるとともに、実験ごとに材料および方法、結果についてまとめさせ、段階を追って執筆させるように指導した。
- ・卒業論文については、研究実施の意義と問題点の洗い出し、解決へのアプローチを自身で調べさせ、部外者にも研究の重要性が理解できる論文作成を指導した。
- ・キクタニギクの遺伝子組換え技術については M2 学生とともに実験とデータ解析を行わせ、共同研究者として Scientific Reports 誌に 2025 年 12 月 23 日に投稿させた。

【ゲストスピーカー 0 人】 【フィールドワーク 0 件】	
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・実践園芸学（後期 2 単位）M1	
②内容・ねらい 蔬菜、花卉、果樹の園芸作目ごとに、近年の生産技術や育種、研究の展開を解説する。 各園芸作目について従来の生産技術と課題、およびその解決のためのアプローチを体系的に理解する。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・授業内課題のうち興味を持ったことについてレポートを提出させ、修得程度の把握と理解の促進を行った。 ・実物を用いて、視覚的に習得できる授業にできるように心掛けた。 ・外部講師として農研機構 野菜花き研究部門の研究員を招聘し、世界を見据えての研究について授業を行ってもらった。	【ゲストスピーカー 1 人】 【フィールドワーク 0 件】
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・創造農学専攻演習Ⅱ（通年 2 単位）M2	
②内容・ねらい 国内外における食・農・環境分野に関する最新の総説や学術論文や文献を読むことで、専門分野の知識を深化させる。学術論文の内容と意義を総括し発表する能力を身に付けるとともに、討論する能力を養成するとともに、修士論文研究を進める上で必要となる科学的な思考力と解析力を養成することを目標とする。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・修士論文に関わる分野において、国内外の原著論文を熟読させ、M1 にて計画した研究内容を実施させ、修士論文作成のためのデータ解析を行わせた。 ・修士論文の内容について園芸学会北陸支部にて口頭発表を行わせ、発表方法の遂行、問題点などの洗い出しを行わせた。 ・分属した下級生に対し、実験指導、卒業研究作成に関するアドバイスを行わせ、自身の理解と修得を深化させるとともに、科学的な思考力と解析力を養成させた。	【ゲストスピーカー 0 人】 【フィールドワーク 0 件】
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・創造農学専攻実験Ⅱ（通年 4 単位）M2	
②内容・ねらい 主として花卉園芸作物と薬用植物について、品種改良による実用品種の開発および生産・利用に関する研究を行い、その成果を取りまとめる。 食・農・環境分野実験手法を習得するとともに、実験結果を解析し公表するための基礎的能力を習得する。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・修士論文に関わる実験を計画立てて行わせ、毎週実験経過を報告させることで、計画的に実験を遂行させた。 ・修士論文の内容について、共同研究先である近畿大学とともに英語論文を作成し、2025 年 12 月 23 日に、Scientific Reports 誌にファーストオーサーとして投稿させた。	【ゲストスピーカー 0 人】 【フィールドワーク 0 件】

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【0 本】
②学術論文（査読あり）	【0 本】
③その他論文（査読なし）	【0 本】
④ 学会発表等	
1. 小川馨乃子、黛隆宏、小越咲子、篠山治恵、畑下昌範、高城啓一、阿部知子、風間裕介（福井県大、福井高専、若エネ研、理研）. トレニアの蜜標欠損変異体を用いた訪虫昆虫飛来頻度の測定. 日本メンデル協会第 2 回大会（ポスター発表）. 2025 年 6 月 15 日（日）福井商工会議所（福井県福井市） 2. 清水美里、山本日生、山岸愛実、村野綾香、細川宗孝、松田一彦、篠山治恵.（福井県大、近畿大学）. キクタニギクにおける効率的な遺伝子組換え技術の確立. 令和 7 年度園芸学会北陸支部大会（口頭発表）. 2025 年 12 月 5 日（金）AOSSA（福井県福井市）	
⑤その他の公表実績	【2 件】
1. 第 74 回たけふ菊人形「菊の新たな価値提案」、2025 年 10 月 22 日、福井新聞 2. 第 74 回たけふ菊人形「ランウェイ、菊で彩り」、2025 年 11 月 2 日、福井新聞	
【2 本】	
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
【0 本】	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	
評議員（園芸学会北陸支部） 学会賞選考委員（園芸学会北陸支部） 花卉研究部門座長（令和 7 年度園芸学会北陸支部大会、2025 年 12 月 5 日（金）） Associate editor（Plant Cell, Tissue and Organ Culture）	

5. 地域・社会貢献活動

①-1 委員就任（国）

- ・ナショナルバイオリソースプロジェクト・広義キク属
運営委員として令和 7 年度の実績を評価し、次年度以降の活動計画について助言を行った。
(2022 年 4 月～現在に至る)

①-2 委員就任（県）

- ・消費・安全対策交付金（食の消費・消費者の信頼確保対策推進交付金）（福井県）
第 3 者アドバイザーとして活動実績の評価を実施した。(2020 年 4 月～現在に至る)

⑥公開講座、オープンカレッジ、社会人・高校生向けの講座の開講

- ・敦賀高等学校 進路探求講座（2025 年 7 月 14 日）
大学での学び、研究、進路についての講義を行った。
- ・美方高等学校 高校 1 年生大学・専門学校出張講義（2025 年 9 月 10 日）
創造農学科の概要、大学での研究についての講義を行った。
- ・若狭高等学校 第 1 学年学問発見講座（2025 年 9 月 12 日）
大学での研究や教育についての講義を行った。
- ・福井農林高校 品種選抜会（2025 年 11 月 19 日）
草花班の生徒に対して、秋ギクをモデルに選抜方法の助言を行った。

6. 大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

ハラスメント委員会（2023 年 4 月～現在に至る）
あわら事業場過半数代表（2023 年 4 月～2025 年 4 月）
学生支援委員会（2024 年 2 月～現在に至る）
学生懲戒委員会（2024 年 2 月～現在に至る）

(3)学内行事への参加

オープンキャンパス（2025 年 8 月 2 日、3 日）
収穫祭（ミニオープンキャンパス）（2025 年 11 月 3 日）
入試説明会：敦賀気比高等学校（2025 年 7 月 24 日）
羽水高等学校（2025 年 7 月 29 日）
敦賀高等学校（2025 年 9 月 9 日）
福井県立大学生物資源学部教員―福井県高等学校理科教員 情報交換交流会(2025 年 8 月 4 日)

(4)その他、自発的活動など